

## マーケット概況（2021年6月）

6月の債券相場は、新規材料難で動意薄の中、10年362回債は2日に前月末比-0.5bpの0.075%で取引を開始した後、3日の10年債入札が低調に終わると10年362回債の利回りは一時0.085%まで上昇し、同日発表された米国の経済指標が軒並み強い結果となると4日に債券先物6月限は一時151円41銭まで下落した。しかし4日発表の5月米国雇用統計の結果が市場予想を下回りFRBのテーパリング開始が遠のくとの観測が広がったことで債券相場は反発した。10日発表の5月米国CPIは予想を上回る伸びとなったものの、物価上昇は一時的なものとの見方が強まり米国長期金利が3ヵ月ぶりの水準まで低下したことなどから11日に10年362回債の利回りは0.025%まで低下し、同日中心限月となった債券先物9月限は一時152円15銭まで上昇した。15～16日の米国FOMCで2023年までに2回の利上げを織り込むタカ派寄りの見通しが示されたことから債券先物は一時安値圏まで反落したが、その後はFRBがインフレ圧力に機動的に対処するとの見方が広がり、パウエルFRB議長が性急な利上げに否定的な議会証言を行ったことから次第に押し目買いが優勢となった。月末は29日発表の7月日銀買入オペ予定で予想に反して3ゾーンの買入額が減額されたことで一時売りが優勢となったものの影響は限定的で、結局10年362回債の利回りは0.050%で取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は概ね-0.09%～-0.10%台で推移した。4日の3M998回債、11日の3M1000回債の入札はともに最高落札利回りが-0.0982%と横ばいで、セカンダリー市場では概ね-0.10%台で推移した。月後半にかけては一部で四半期末の在庫保有を手控える動きがあり、25日の3M1004回債入札では-0.0962%に上昇したが、セカンダリー市場では-0.103%で取引を終えた。1Yゾーンは、前月に続いて国庫短期証券買入オペで買入対象外となり月前半は動きが乏しい展開となった。16日の1Y1002回債入札は最高落札利回りが-0.1091%と前回債から1.0bp程度上昇した。21日の国庫短期証券買入オペから対象銘柄となったが需給環境は改善せず、最終的に-0.117%と小幅の低下に留まった。6Mゾーンは月を通して-0.10%台で推移し-0.105%で月内の取引を終えた。

### <一般債市場>

シ団方式の10年政保債は今年度初の起債となり、起債スプレッドは国債カーブ+4.0bpと前回(2月)債から1.0bp縮小した。10年地方債は同+6.0bpと2ヵ月連続で縮小したものの流通実勢水準並みに決定したことや、国債償還月に伴う投資家の運用資金が潤沢なことから販売は順調に進んだ。5年地方債は0.01%クーポンが維持され、需要は旺盛であった。既発債も同様に良好な需給環境下、スプレッドは安定していた。社債の発行額は2兆1,360億円と前年同月比3,000億円弱増加した。個人向けのソフトバンクグループ劣後コーラブル債やENEOSホールディングスハイブリッド債、野村ホールディングス永久劣後債等の大型発行が相次ぎ起債額が膨らんだ。

### ◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#362	0.075(2日)	0.025(11日)	0.085(3日)	0.050(30日)
#361	0.065(1日)	0.015(11日)	0.070(4日)	0.040(30日)
#352	-0.035(2日)	-0.085(11日)	-0.030(4日)	-0.065(29日)
#147(5Y)	-0.100(3日)	-0.125(11日)	-0.095(22日)	-0.105(30日)
#176(20Y)	0.450(2日)	0.400(11日)	0.460(4日)	0.440(30日)
#996-#1001TDB(6M)	-0.105(9日)	-0.107(10日)	-0.105(9日)	-0.105(18日)
#997-#1004TDB(3M)	-0.102(4日)	-0.110(11日)	-0.098(25日)	-0.103(25日)